

## 第5回江別市行政審議会 第1部会 会議録（要点筆記）

日 時：平成25年6月14日（金） 18:00～20:20

場 所：市役所西棟会議室1号・2号

出席委員：押谷委員、佐藤委員、阿部委員、白鳥委員、岸本委員（計5名）

事務局：米倉企画政策部次長、西田参事（総合計画担当）、村田主査（総合計画担当）、  
長谷川主任（総合計画担当）

### ■開会

### ■議事

#### （1）えべつ未来づくりビジョン＜第6次江別市総合計画＞ 素案について

##### ○ 押谷部会長

計画の素案については、本日初めてみなさんにご覧にいただくものですので、まだ十分に議論できないかもしれません。7月にまた部会がありますので、その際に深めた議論をしていきたいと思いますが、本日もお気づきの点についてご質問・ご意見等いただければと思います。

「えべつ未来づくりビジョン」本体の素案については、計画全体の10年間の大きな方向性がこれで良いかどうかという視点でご意見をいただきたいと思います。

##### ○ 白鳥委員

構成について質問ですが、今回の総合計画での「協働」の考え方について、一番最初に述べている部分は14ページの「めざすまちの姿」でしょうか。それとも8ページの（6）「市民協働」の部分でしょうか。

##### ○ 事務局

「えべつ未来づくりビジョン」の構成としては、「1 江別市を取り巻く社会動向」と「2 江別市の現状」を踏まえて、14ページからの「3 めざすまちの姿」で江別市がどのような方向性でまちづくりをしていくのかをまとめているという構成です。

##### ○ 押谷部会長

白鳥委員のご懸念としては、「協働」についてはまず8ページの「1 江別市を取り巻く社会動向」に出てきますが、今回の総合計画の全体像についての記載である14ページ「3 めざすまちの姿」からの部分には「協働」のことが項目として出てこない、ということだと思います。それについては、14ページの（1）「まちづくりの基本理念」のところで、「協働」はすべての項目に関わることから基本理念の一つにせず、基本理念のすべてに係る前段の文章の中で「協働」の概念を表現したという経緯だったと

と思いますが、事務局からご説明をお願いします。

○ 事務局

最初に行政審議会にご提示した計画の骨子たたき台では、基本理念の⑤として「協働」を掲げていました。その後、行政審議会でご審議いただく中で、押谷部会長からご説明があったとおり、「協働」はすべての項目に関わることから、前段の文章の中で、「協働」の概念はこれらすべての基本理念の根幹にある、と表現することで整理させていただきました。

○ 白鳥委員

今回の計画素案から後半に追加された「まちづくり政策」の内容については、審議対象外でしょうか。たとえば、このような政策を追加した方が良いというようなことは、この審議会から意見できることでしょうか。

○ 事務局

計画の方向性に問題がないかどうかについての議論をまずしていただくことと、それに加えて、政策を進めていくにあたってどのような点に留意して進めていくべきかということについて、要望なども含めて答申としてご意見をいただきます。ですので、審議の中でたとえば協働を進めるにあたってこういった政策や取組があった方が良い、というご意見がありましたら、答申に盛り込んでいただくことになります。

○ 白鳥委員

行政審議会で話し合った内容が、行政がまとめる「まちづくり政策」に不足している要素があるとしたら、答申に盛り込むことができるということなのですね。

○ 事務局

具体的な展開は個別計画や各部の事業に委ねていき、総合計画では大きな方向性を示すのみという形にしていることから、具体的にこのように取り組んだ方が良いというご意見をたくさんいただけると、今後、総合計画を具体的に推進していく上で参考になりますので、答申に盛り込んでいただければと思います。

○ 押谷部会長

この「まちづくり政策」については、行政経営の中で必要だと思われる分野を網羅的に体系化してあるとは思いますが、何か現時点で具体的にご意見ありますでしょうか。

○ 白鳥委員

現時点ではありませんが、これからの審議の中で、是非とも政策の中に盛り込んでほしいという意見がこの部会としてまとめれば、計画案に盛り込むのか、答申としてまとめるのか事務局と相談するということでしょうか。

○ 事務局

現在、計画の「素案」という状態ですが、これからパブリックコメントや行政審議会からの答申をいただき、それらを踏まえて「計画案」にまとめます。その段階で、計画の中に盛り込むべきものは盛り込んでいくことになります。

○ 白鳥委員

「えべつ未来戦略」の方でこの部会として力を入れて審議した部分が、「まちづくり政策」の方にも記載されていた方が、総合計画の形として良いと思いましたが、それが可能かどうか気になりましたので、質問させていただきました。

次に、「まちづくり政策」08-02に「2 国際交流の推進」とあり、「協働」という政策分野に国際交流を位置付けていますが、これはどのような意図でしょうか。

○ 事務局

現行の第5次総合計画からの継続性を意識して、このような位置付けになっています。

○ 白鳥委員

他都市では、増加する外国人の市民自治問題を「市民基本条例」や「協働」で対応している例がありますが、江別市ではそのような課題は無いと思います。しかし、今後その可能性が無いとは言えませんので、「協働」の政策分野の中に入れておく収まりが良いかもしれません。

○ 佐藤委員

白鳥委員がおっしゃるように、「まちづくり政策」の「協働」の政策分野をもう少しクローズアップできれば良いと思います。その「協働」をどのように推進していくかというところは、4ページのPDCAサイクルの説明の中の「D」のところに「協働」による計画の実行ということが記載されていますので、実際の政策がどのように実行されていくかというところは、私も一番注目しているところです。

○ 押谷部会長

「協働」というのはなかなか具体的な数値で表すことが難しく、目標設定ができないということもあります。

○ 白鳥委員

行政評価は当然やらなければならない時代ですので、指標設定は必要ではありますが難しいところだと思います。

○ 押谷部会長

前回の全体会議の中で、目標値を設定できないかという議論がありましたが、それについては「えべつ未来戦略」の方に設定されるのでしょうか。

○ 事務局

「えべつ未来戦略」では、「達成度を測る指標」を設定し、毎年PDCAサイクルで進行管理しながら具体的な事業の組み立てをしていきます。

○ 押谷部会長

総合計画の本体としては、指標値等の具体的な数値は入ってこないという形になります。

○ 阿部委員

8ページの「市民協働 ―市民主体のまちづくり―」について、これまで、なぜ自治

会が「協働」のまちづくりの先頭に立つのかという議論が自治会の役員の間でもありましたが、この審議会で「協働」について議論する中で、「協働」についての理解が深まり、他の人に説明しやすくなりました。非常に大事な部分だと思いますが、表現がだいぶ分かりやすくなったと思います。

○ 押谷部会長

江別市では「自治会」という表現で、「町内会」という言葉は使わないのでしょうか。

○ 阿部委員

「自治会」で統一しています。他市町村では、「町会」という言葉を使っていたりしますが性質に違いはありませんので、「自治会」という表現で問題ありません。

○ 佐藤委員

将来都市像について、まだ仮置きとなっていますが、そろそろ決定する作業を始めるのでしょうか。現在の「人が輝く共生のまち」というのは、あまり市民に理解されていないと思いますので、子どもたちでもはっきりわかるようなものにしていきたいと思います。「協働」という言葉だとわかりにくいので、「みんなでつくる」というような柔らかい言い回しを考えてください。

それと、江別の市民憲章に「老人」という言葉が入っています。現在は「老人」ではなく「高齢者」という言葉を使うことになっていますので、修正すべきだと思います。

○ 事務局

将来都市像については、第2回の行政審議会で市民公募してはどうかというご意見をいただいております。そこで、7月から実施するパブリックコメントの際に、いくつか候補を示した中から市民に選択してもらい、その結果をもとに行政審議会にご相談させていただく予定です。

市民憲章については条例で定められておりますので、議会の議決を経て修正するという流れになります。担当部署と相談の上、対応させていただきます。

○ 白鳥委員

「えべつ未来づくりビジョン」の「えべつ」が平仮名になっているのは何か意図があるのでしょうか。

○ 事務局

できるだけやわらかい表現にしたいという意図で、「えべつ未来市民会議」の名称でも平仮名を使っており、それを継承しています。

○ 押谷部会長

細かい点ですが重要なことです。部会で結論できる問題ではありませんので、全体会議の中で議論した方が良いでしょう。

将来都市像と「えべつ未来づくりビジョン」の名称については、全体会議の中で議論する場を設けていただくことにしたいと思います。

## (2) えべつ未来づくりビジョン<第6次江別市総合計画>別冊 えべつ未来戦略について

### ○ 押谷部会長

まず、前回までに議論していただいた計画骨子の内容から、今回の計画素案で大きく変わった部分についてご意見を伺いたいと思います。計画骨子の段階では「○ 多世代間の協働によるまちづくり」という、子育て世代から高齢者世代までの協働という柱がありましたが、これが今回の計画素案では戦略3 Aに移動するということになっています。前回の部会で時間をかけて議論したところですので、ご意見をいただきたいと思います。ご覧いただくとわかるように、他の戦略にも協働という言葉がいくつか出てきます。他の戦略から戦略1に入れた方が良いのではという意見もあれば、他の戦略に移動した項目もありました。協働というのは先ほども議論があったとおり、全体に関わることでですので、協働だからと言ってすべて戦略1に盛り込むべきではないとは思いますが、「○ 多世代間の協働によるまちづくり」を戦略3に移したことについてはいかがでしょうか。

### ○ 白鳥委員

「○ 多世代間の協働によるまちづくり」の柱ができた経緯としては、もともと「○ 元気な高齢者が活躍するまちづくり」という柱があったものを、高齢者を含んだ多様な世代間、言い換えると、子どもから高齢者の「垂直方向での協働」という表現にした方が良いのではないかという論議があり、こうなったと理解しています。よって、「高齢者など様々な世代の人たちがまちづくりに参加する」ということが、どこかで謳われていれば、ここに柱として立てておく必要もないと思います。ただし、高齢者となると生涯学習という枠組みに入れてしまうケースが行政では良くあり、生涯学習は教育部の所管ですので、教育の範疇で考えることになってしまいます。そうならないように、生涯学習だけではなく、高齢者の元気づくりや、まちづくりへの参加の推進ということが、どこかでうまく表現できれば良いと思います。

### ○ 押谷部会長

高齢者世代を含む世代間の垂直方向の協働ということについては、戦略3 A③「多世代が交流する子どもの遊び場の充実」の中に要素が入っています。ですが、計画の骨子たたき台のときに要素としてあった高齢者の生きがいや、まちづくりの場でどう活躍していくかといった部分の要素が入っていないように思いますが、どこかに入れなくて良いでしょうか。

### ○ 岸本委員

戦略3 Aは「子どもを産み育てる」ということで、人づくりの部分だと思います。もちろんそれには高齢者の力も必要ですが、当初戦略1にあったまちづくりの中での元気な高齢者の活躍という要素とは合わないと思いますので、全てこちらに統合するというのは違和感があります。ですので、戦略1 Aの中にその要素を付け加えて残した方が良いのではないのでしょうか。

○ 押谷部会長

まちづくりの中で果たすべき高齢者の役割という要素は、戦略3に移さずに戦略1に残した方が良いのではないかというご意見だと思います。

○ 白鳥委員

戦略1 A①「協働によるまちづくり」の主な内容欄の記載の中に、「高齢者をはじめ、多世代の協働による」というような表現を入れて、その要素を盛り込んではどうでしょうか。そうすれば、高齢者も協働のまちづくりの中で、地域課題の解決に関わっていくということが明確になるのではないのでしょうか。

○ 阿部委員

以前の審議会でも申し上げたとおり、高齢者が生涯学習の枠組みに流れてしまうことは、高齢者クラブとしても困っている問題です。それに追い打ちをかけるようなことにならないようにしていただきたいと思います。高齢者が、生涯学習ばかりに関心を持つのではなく、地域のことに関心を持つようにしていかなければ、まちづくりが立ち行かなくなってしまうので、そこをうまく表現していただきたいと思います。

○ 事務局

協働はすべてに関わるものですので、どの戦略プロジェクトで特化させるべきかという視点で検討しました。実際に推進プログラムを具体的に事業化して進めていく上で、どのようなことが想定されるかも視野に入れて検討した結果、戦略3 Aで想定される子育て世代と高齢者世代の交流という取組が、多世代との協働の要素が一番強いことから、こちらに整理したところです。また、先ほど白鳥委員がおっしゃっていたとおり、戦略1 A①では高齢者も意識した内容にはしています。

○ 白鳥委員

まちづくりにおいて、「高齢者」はまだまだキーワードとして大きい存在ですので、戦略1 Aの文章の中に「高齢者」という言葉を入れた方が良いと思います。

○ 佐藤委員

「えべつ未来市民会議」での議論から、「元気なお年寄」ということはキーワードとして出ていましたので、白鳥委員のおっしゃるように「高齢者」という言葉は入れた方が良いと思います。協働のまちづくりは、みんなでやる、という考え方ですし、大麻地区をはじめとして高齢化率が高いという現状が江別市にはありますので、ここに記載しておくのは必要なことだと思います。

○ 岸本委員

今回の総合計画が終わる平成35年には、高齢者人口の割合が約35%を占めることになるということです。現役世代はなかなかまちづくりに参加できないわけですから、今以上に高齢者がまちづくりで活躍する場面が増えてくると思いますので、そういう意味でも高齢者という言葉を入れておいた方が良いと思います。

○ 阿部委員

自治会としても、これから高齢者をどのように自治会や地域の中心として育てて、

地域を色々な面で守ってもらうかということが重要な問題ですので、高齢者にいかにまちづくりで活躍してもらうか、という要素はきちんと入れていただきたいと思います。

○ 押谷部会長

それでは、戦略 1 A ①の辺りに、高齢者のまちづくりへの参加のことを表現していただきたいと思います。できれば高齢者の生きがいにもつながるようなことが望ましいと考えます。

○ 白鳥委員

「達成度を測る指標」について、1 A－1 の指標の「協働によるまちづくりが進んでいると思う市民割合」はアンケートで取得するのだと思いますが、協働しているかどうかということを一市民がわかるかどうかという問題があります。「協働によるまちづくり」とは何かがわからなければ、それが進んでいるかどうかわかりません。1 A－2 や 1 A－3 の連携事業数についても、行政が関わっている部分や、市民活動センターが関わったものは把握できるかもしれませんが、それ以外の事例は把握が難しいと思います。そういう状況で、現状値が不明確であることから、目標の設定もまた難しいと思います。指標については、まだ確定していないため、本日の論議の対象外ということでしたが、気づいた点として申し上げました。

戦略 1 B ①の主な内容欄の記述について、助詞の使い方など文章表現を直した方が良いでしょうと思います。それと、この戦略で大学との連携のことを強く打ち出していますが、これについて「まちづくり政策」の中に謳われているのでしょうか。産学官連携という意味での大学との連携のことは記載があったと思いますが、地域課題の解決といった側面のまちづくりにおいて大学と連携するということについての記載も「まちづくり政策」の中に謳われるべきかと思います。

○ 押谷部会長

協働とはどのような意味で、どのような取組で、どのような効果をもたらすのかといったことは、まだまだ市民の十分な理解が進んでいないのが現状で、難しい部分だと思えますので、指標については事務局の方でさらにご検討いただきたいと思います

戦略 1 B ①の主な内容欄の記述についてもご指摘がありました。「支援することで」といった表現など、行政目線が強い記述の仕方になっていますので、工夫していただきたいと思います。

○ 白鳥委員

戦略 4 のシティプロモートについて、推進プログラムで「生活情報の発信」「観光・産業情報の発信」「まちづくり情報の発信」となっており、様々な情報を全体的に発信していくというやり方のようなのですが、メインとなる対象を定めた方がシティプロモートしやすいと思います。たとえば、江別であればフード・コンプレックス国際戦略総合特区を絡めた、食に関する情報発信を中心に江別を押し出していくというシティプロ

モートのやり方もあります。どのようなシティプロモートの方法をとっていくか、まさに戦略性があるべきだと思います。

○ 事務局

白鳥委員のおっしゃるとおり、ターゲットを絞ってそこを積極的にPRしていくということが、最終的に意図しているところですが、なかなかターゲットを絞り切れない現状がありますので、大きめのテーマを設定して当面は進めていき、少しずつ絞り込みをかけていって、メインとなる対象を押し出していくという形で組み立てています。単に江別市のことを知られているというだけではなく、江別市の優位性をPRするというのがプロモーションのポイントになると考えています。

○ 白鳥委員

「えべつ未来戦略」にも記載があるように、市民がみんなで江別市をプロモーションしていく、市民一人一人がプロモーターになっているという状況になるのが一番理想的です。そこに至るまでは、行政が旗振り役としてシティプロモートを進めていくことになるのだと思います。

○ 岸本委員

戦略2 Aと2 Bがかなり類似しているように思います。戦略2を担当している第2部会で議論になっているかもしれませんが、逆に内容を詳しく知らない我々から見ると違和感がありますので、一般市民の方が見たときにも同じように感じるのではないのでしょうか。

○ 白鳥委員

戦略2 Bは農業を軸にまとめたのではないかと思います。江別市の農業は、大都市近郊にある中で貴重な資源であるということで、そこに着目した戦略なのかと思いますが、たしかに戦略2 Aと重複しているように見えます。

○ 事務局

「えべつ未来市民会議」での議論から、「農業」というキーワードが非常に多く出ていたことから、戦略としてまとめたという経緯があります。戦略2については第2部会にご相談させていただきながら柱立てを整理しましたが、その中で、戦略2 Aについては中小企業をはじめとする産業全般について大枠でまとめた戦略とし、戦略2 Bについては農業に焦点を当てた戦略にする、という整理になっています。

○ 岸本委員

内容を読むと、戦略2 Bには「基幹産業の一つである農業」という表現がありますので、農業に焦点を当てているということが読み取れますが、戦略2 Aと戦略2 Bのタイトルだけ見ると、同じに見えてしまいますので気になりました。

○ 押谷部会長

これについて、どのように扱うかは第2部会に任せたいと思います。

○ 岸本委員

戦略２Ａ④になるかと思いますが、環境ビジネスの創出という視点を入れてはどうかと思います。戦略２Ｃ①で「環境」という言葉は出てきますが、企業側が立地する際の環境保全に対する考え方という視点ですので、環境ビジネスという視点ではないと思います。これを入れるとすると、戦略２Ａ④の大学・研究機関との共同研究という部分に関連付けられないでしょうか。これから１０年間の総合計画ですので、環境をビジネスと捉えて新しい産業を創出するという要素も入れてはどうでしょうか。

○ 押谷部会長

これについては、河西部会長の第２部会にご意見として伝えていただきたいと思います。

○ 白鳥委員

環境保全の関係は、今回の総合計画ではどこに記載されているのでしょうか。

○ 事務局

「まちづくり政策」の０１－０１「人と自然の共生」に記載があります。

○ 押谷部会長

本日の議論はここまでにして、後日、確定後の計画素案が事務局から送付されますので、それをお読み取りいただいた上で、次回の部会でまた議論したいと思います。今回の計画素案の資料から大きく方向性の変更があった場合は、その部分がわかるように明示していただくよう、事務局の方をお願いしておきたいと思います。

### **（３）次回の審議会について**

次回の第６回行政審議会（部会）の日程調整のため、各委員の都合確認

７月２３日（火） １８：００～ に決定

## **■閉会**